

《戦前》 【総目録】 レコード販売目録・会社別所蔵リスト (2025年12月現在)

◇目次◇

レーベル名 [社名]	左記以外に含まれるレーベル	ページ
ウグ井ス [京都興業商会／東洋蓄音器]	八千代、からとり	4
エトワール、テレフンケン [福永レコードプロダクション]	ファストン	5
オーゴン	ユーモア	6
オデオン		7
オリエント 【ラクダ印】 [東洋蓄音器／日本蓄音器商会]		8
キング	日本テレフンケン	10
コッカ	プレゼント、エイト	11
コロムビア、リーガル、ラッキー [日本蓄音器商会／日蓄工業]		12
(参考) 日蓄／日本コロムビア系列の会社変遷		15
三光堂 (出張録音、ライオンほか) →合同蓄音器	出張録音盤：米コロムビア、英グラモフォン、独ライロフォン、独ベカ	17
ショーワ [昭和レコード製作所]、 ショーチク [昭蓄レコードスタジオ]	ノーマル	20
スタンダード [テイチク]		21
タイハイ [太平蓄音器／大日本蓄音器]	ニッター、クリスタル、コメット、キリン	22
太陽 [太陽蓄音器]		24
ツル、アサヒ [大和蓄音器／アサヒ蓄音器]	スワン、シスター	25
テイチク		27
東京レコード 【富士山印】 [東京蓄音器／合同蓄音器]		28
特許レコード 【金鳥印、蝶印】		30
内外 【貝印】 [内外蓄音器商会]		31
ニッター 【ツバメ印】 [日東蓄音器]		32
ニッポノホン、イーグル 【鷲印】 [日本蓄音器商会]	ユニバーサル、アメリカン、ローヤル、 シンホニー、モモタロー	33
ニッポンレコード 【トンボ印】		37
パーロホン [イリス商会]		38
ビクター [日本ビクター蓄音器／日本音響]	スター	40
ビクター (洋楽愛好家協会、家庭音楽名盤集)		42
ヒコーキ [帝国蓄音器商会／合同蓄音器]		44
フィルモン音帯		46
ポリドール [日本ポリドール蓄音器／大東亜蓄音器レコード]		47
彌生 [東京レコード製作所]		49

〔その他：国内レコード会社以外〕

天賞堂 (出張録音)	米コロムビア	50
十字屋	ニッポノホン、パイオニヤ	52
その他の出張録音目録	英グラモフォン、米ビクター	53

販売目録所蔵リスト [戦前・総目録] をご覧になる方へ

所蔵リストは、主に会社ごとに所蔵する販売目録を一覧できるようにした補助的な資料案内ツールです。
最新の所蔵状況及び利用可否は、[国立国会図書館サーチ <https://ndlsearch.ndl.go.jp/>](https://ndlsearch.ndl.go.jp/) でご確認ください。

1. リストの種類

戦前の録音資料（ほぼ全てSPレコード）の販売目録のリストとして、次の2つを作成しています。

- 《戦前》【総目録】レコード販売目録・会社別所蔵リスト
- 《戦前》【月報】レコード販売目録・会社別所蔵リスト

両リストに同名の項目がある場合、概要（沿革等）は**総目録**の所蔵リストに記載しています。

2. 総目録、月報について

- ・「総目録」とは、発行時点において当該レコード会社やレーベルで発売している商品を網羅的に掲載した資料、「月報」とは、各月に発売される新譜を掲載した資料を指します。
- ・総目録は、特に戦後は各年に発行されることが多くなりますが、戦前は必ずしもそうではなく、月報との区別があいまいな場合もあります（新譜案内と既発売目録が併せて掲載されるなど）。そうした資料については、両方の所蔵リストに掲載している場合もあります。
- ・タイトルに年次のある総目録について、掲載レコードの発売時期はその前年までの場合も多いです。

3. 凡例

- ・リストの各項目の名称は、基本的にそれぞれのレコード会社におけるメインレーベルです。
※三光堂は時期によって扱うレーベルが大きく変わるため、例外的に社名を項目名としています。
- ・各目録のリスト上の記載箇所は、タイトル等に年次・月次がある場合はそれに基づきます。
年次・月次がない場合は、刊行年月に依拠しています。
- ・各項目の概要欄の情報は、参考文献欄に挙げている資料のほか、以下の資料を参照しています。
 - 『官報』
 - 森本敏克 編『レコードの一世紀・年表』沖積舎, 1980. 【当館請求記号：KD355-9】
 - 『蓄音機レコード製作所並發行所明細表. 昭和13年末現在』内務省警保局圖書課, [1938]. 【D4-J169】
 - 「78MUSIC」 <<http://78music.jp/index.html>> 「各社の歴史」ほか

合冊について

- ・複数の資料を合冊製本している場合、色付の丸に白抜き数字（①、②、③…）で示しています。
各一覧表の中で、同じ数字が付されているもの同士が合冊されています。

記号

- ・白黒の記号：当該資料が音楽・映像資料室の開架で閲覧できることを示しています。

○	原本とコピー版を所蔵しています。開架のコピー版をご利用ください。
●	コピー版のみ所蔵しています（原本は所蔵していません）。

- ・赤い記号：書庫資料 → 閲覧には資料請求票での申込みが必要となります。

◎	原本のみ、書庫に所蔵しています。
---	------------------

- ・青い記号：デジタル化済み資料 → 国立国会図書館デジタルコレクションでの閲覧が可能です。

(*)	紙媒体はご利用いただけません。
-----	-----------------

更新履歴

- **2025年12月の主な更新内容**

- ・新たに利用可能になった資料の追記、軽微な修正

- **2025年6月の主な更新内容**

- ・新たに利用可能になった資料等の追記（ビクター洋楽愛好家協会等）

- **2024年12月の主な更新内容**

[全般]

- ・新たに利用可能になった資料等の追記
- ・デザインの全般的な修正
- ・各項目右肩の「〇年〇月現在」という記載を廃止（リスト全体で「〇年〇月現在」としたため）
- ・すべての項目に概要欄（会社の沿革等）と参考文献欄を設置
- ・概要欄の下部に、関連する項目へのリンクを設置（文言は「→『〇〇』の項も参照」等）
- ・デジタル化済み資料に、デジタルコレクションへのリンクを貼付
- ・項目名は、基本的に各レコード会社のメインレーベルに統一し、傍系レーベルは目次の「左記以外に含まれるレーベル」欄に記載
- ・月報所蔵リストに載っている資料から、総目録リストにも載せた方が良い資料を転記（新譜案内と総目録を併せて収録している月報など）

[個別]

- ・「ヒコーキ、富士山、ライオン」の項を「ヒコーキ」に改め、富士山（合同蓄音器）の内容は「東京レコード」の項に、ライオン（合同蓄音器）の内容は「三光堂」の項に転記
- ・「ニッポノホン、イーグル、オリエント」の項を「ニッポノホン、イーグル」に改め、「オリエント」の項を新設（「内外蓄音器商会（オリエント）」の項の内容は吸収）
- ・「コロムビア、リーガル、ラッキー」の項の別紙「日蓄／日本コロムビア系列の会社変遷」を新設
- ・「ショーテック」の項を「ショーワ、ショーテック」に改めた
- ・「アサヒ、スワン」と「シスター」の項を合わせ、新たに「ツル、アサヒ」とした（ツルの目録は新譜案内に併せて載っていたため月報所蔵リストから転記。スワンは請負製造していたレーベル、シスターは再発レーベルのため、項目名からは削除）
- ・「出版者不明」の項を、「その他の出張録音目録」の項に改めて情報を追記

- **2023年12月の主な更新内容**

- ・新たに利用可能になった資料等の追記
- ・「ビクター（洋楽愛好家協会、家庭音楽名盤集）」の項を新設（月報所蔵リストの「ビクター」の項から分離）

ウグ井ス（京都興業商会／東洋蓄音器）

■概要■

1915（大正4） 合資会社 京都興業商会が設立される

1916（大正5） 合資会社 京都興業商会が「東洋蓄音器合資会社」に社名変更。東洋蓄音器(株)の事業を引き継ぐ

・ウグ井ス（ウグイス）：京都興業商会の主力レーベル。大半が複写盤。

・からとり：オリントをオリジナルとする複写盤

・八千代：京都興業商会の正規盤

→「[日蓄／日本コロムビア系列の会社変遷](#)」も参照

→「[オリント【ラクダ印】](#)」の項も参照

≪参考文献≫

大西秀紀「京都のレコード会社 東洋蓄音器（オリントレコード）について」『ART RESEARCH』vol.23-2, 2022.12.19. <<https://www.arc.ritsumeimei.ac.jp/download/ar/ar23-2/02/ar23-2-02ho.pdf>>

		備考
年不明 [1910年代]	YM2-M2562◎ 東洋蓄音器合資会社音譜目録	ウグ井スレコードのほか、八千代レコード、からとりれこをど
1916（大5）	YM2-H674● ウグ井スレコード両面盤目録 大正5年7月改正	

イトワール、テレフケン Etoile、Telefunken (フクナガ／福永レコードプロダクション)

■ 概要 ■

1932 (昭和7) 福永孝蔵が京都市山科区竹鼻扇町に福永レコードプロダクションを設立。イトワール、テレフケン等を販売
 ※ テレフケンキングの洋盤と同名だが無関係

福永孝蔵 (1875-1938、徳島県生まれ) は1908～1909年頃、京都で東洋蓄音器商会を設立 (ラクダ印オリエントレコードの東洋蓄音器(株)の前身)。
 1919年に東洋蓄音器が日蓄に買収された際に退社し、大阪のニットレコード、名古屋の大和蓄音器商会 (後のアサヒ蓄音器商会) へと籍を移し、1932年に福永レコードプロダクションを設立した。

[→「オリエン」の項も参照](#)

«参考文献» (【 】内は当館請求記号)

岡田則夫「続・蒐集奇談」『レコード・コレクターズ』【Z11-1283】第二十二回 (1992.9, pp.116-121)

大西秀紀「京都のレコード会社 東洋蓄音器 (オリエンレコード) について」『ART RESEARCH』vol.23-2, 2022.12.19. <<https://www.arc.ritsumei.ac.jp/download/ar/ar23-2/02/ar23-2-02ho.pdf>>

青字はデジタル化済み (国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能)

		備考
年不明 [1930年代]	YM2-M2550◎ ファストン、ゴドモレコード新発売!! 第1回リスト	ファストンレコード：特許レコードから買収した児童盤の再発
1935 (昭和10)	YM2-M2397 (*) イトワールレコード：新譜目録 第2回	
	YM2-M2551◎ イトワールレコード：臨時発売御案内	品番2000の「日満おどり」に「満州国皇帝御来訪記念盤」とあるため、1935年4月頃の新譜案内と推定
1937 (昭和12)	YM2-M2401 (*) テレフケンレコード：新譜目録 [第2回]	
	YM2-M2402 (*) テレフケンレコード [昭和12年] 9月10日発売	

オーゴン Augon (オーゴンレコード合資会社/株式会社)

■ 概要 ■

- 1928 (昭和3) 美野川潤三郎らがニッポンレコード合資会社を設立 (所在地は同年中に麴町から日本橋へ移り、1930 (昭和5) 年には田端へと移った)。
トンボ印ニッポンレコードのほか、1932 (昭和7) 年頭頃からホーオーレコードも発売
- 1932 (昭和7) ニッポンレコード合資会社からオーゴンレコード合資会社へと社名変更。
大衆盤として有名なオーゴンをメインレーベルとして新譜を出す一方、トンボ、ホーオーも継続発行した
- 1934 (昭和9) オーゴンレコード合資会社を解散し、新たにオーゴンレコード(株)を設立 (翌1935 (昭和10) 年にはオーゴン蓄音器レコード(株)に社名変更)
- 1937 (昭和12) 経営難に陥る。同年中は昭和蓄音器(株) (サクラレコードほか)、昭和録音(株) (ミリオンレコード) が工場を使用
- 1939 (昭和14) オーゴン蓄音器レコード(株)が解散。跡地にはゼーオーレコード(株)が設立される

→「ニッポン【トンボ印】」の項も参照

«参考文献» (【 】内は当館請求記号)

倉田喜弘『日本レコード文化史』東京書籍, 1979, pp.393-396. 【KD355-4】(国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能 <<https://dl.ndl.go.jp/pid/12434731/1/203>>)

岡田則夫「続・蒐集奇談」『レコード・コレクターズ』【Z11-1283】第十八回 (1992.5, pp.110-115)

森本敏克 編『レコードの一世紀・年表』沖積舎, 1980, p.30ほか. 【KD355-9】(国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能 <<https://dl.ndl.go.jp/pid/12434737/1/19>>)

『蓄音機レコード製作所並発行所明細表. 昭和13年末現在』内務省警保局圖書課, [1938], p.17. 【D4-J169】(国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能 <<https://dl.ndl.go.jp/pid/1881757/1/21>>)

		備考
1935 (昭10)	YM2-L146● オーゴンレコード：昭和拾年度四月新譜並に総目録	昭和10年4月の新譜に加え、総目録あり。 ユーモアレコード (お笑い物専門レーベル) の既発売目録を含む。

オデオン（日本オデオン）

■概要■

- 1928（昭和3） 大阪に日本オデオン(株)が設立される
- 1930（昭和5） 日本オデオン、3月にオデオンレコードを発売。7月には邦楽も発売
- 1931（昭和6） 日本オデオンの広告や月報に、東京営業所の所在地として「銀座6丁目交詢ビル」が記載されるようになる
7月、日本オデオンが新譜発売を中止
- 1934（昭和9） 日本コロムビアが独カール・リンドストローム社と契約を結び、オデオンレコードの発売権を獲得

→「パーロホン」の項も参照 ※日本オデオンが新譜発売を中止した後、オデオンレコードはパーロホンに吸収されている

«参考文献» (【 】内は当館請求記号)

岡田則夫「続・蒐集奇談」『レコード・コレクターズ』【Z11-1283】第二十二回（1992.9, pp.116-121）

		備考
1931（昭6）	YM2-124○昭和6年 ① YM2-124○昭和6年1～6月 ①	合冊 ①昭和6年、昭和6年1～6月
1938（昭13）		（参考） ※日本オデオンは既になくなっていない時期の資料 YM2-184 ●：『1938年のレコード表』（レコード音楽社） →1938年頃発売の洋楽レコード情報を収載（オデオンほか14社） →作曲家の50音順にレコードを列挙。発売番号と、一部発売年月の記載あり

オリент【ラクダ印】（東洋蓄音器／日本蓄音器商会）

■概要■

- 1908～1909頃 福永孝蔵が京都に東洋蓄音器商会を設立
- 1912（大正元） 東洋蓄音器(株)設立（東洋蓄音器商会を買収する形）。正規盤、複写盤の両方を含むオリントレコード（ラクダ印）を発売
- 1914（大正3） 複写盤に関する訴訟を抱える一方、松井須磨子の「復活（カチューシャの唄）」が大ヒット
- 1916（大正5） 東洋蓄音器合資会社へと組織変更（合資会社 京都興業商会在社名を「東洋蓄音器合資会社」に変更し、事業を引き継いだ。東洋蓄音器(株)は翌1917年に解散）
- 1917（大正6） 大阪の複写盤メーカー・声光商会（ラビット、ヨシノ、カスガ（鹿印））を買収
- 1918（大正7） 大阪蓄音機(株)（ナショナルレコード（白熊印））と合併
- 1919（大正8） 東洋蓄音器合資会社が日蓄に買収され、日蓄京都工場となる（オリントレーベルは1932年まで存続）

→「日蓄／日本コロムビア系列の会社変遷」も参照

→「ウグ井ス」の項も参照

≪参考文献≫

大西秀紀「東洋蓄音器（オリントレコード）の社史調査とディスコグラフィの作成」京都市立芸術大学リポジトリ <<https://kcua.repo.nii.ac.jp/records/143>>

→日蓄に買収される1919（大正8）年までのオリントレコードのディスコグラフィ（正規盤と複写盤それぞれ）等をまとめている。

大西秀紀「京都のレコード会社 東洋蓄音器（オリントレコード）について」『ART RESEARCH』vol.23-2, 2022.12.19. <<https://www.arc.ritsumei.ac.jp/download/ar/ar23-2/02/ar23-2-02ho.pdf>>

岡田則夫「続・蒐集奇談」『レコード・コレクターズ』【Z11-1283】 第十一回（1991.8, pp.118-124）

		備考
[1913（大2）]	YM2-92○ オリントレコード：Single & double disc	出版者は内外蓄音機商会（京都の取次店。兵庫の貝印・内外蓄音器商会とは別）。同商会が発行したオリントレコード（複写盤）の取扱目録。
1916（大5）	YM2-186● ラクダ印オリントレコード両面盤目録	（出版者：東洋蓄音器） 1枚物。総目録だが新譜も掲載
1922（大11）	YM2-L119○ オリントレコード両面盤曲種目録 no.11-7	（以降の出版者：日本蓄音器商会） ・いずれも1枚物 ・総目録だが新譜も掲載（大正11年7月, 10月新譜）
	YM2-186○ オリントレコード両面盤曲種目録 no.11-10	

		備考
1926 (大15/ 昭1)	YM2-185○ オリエントレコード	総目録だが正月新譜も掲載
1928 (昭3)	YM2-L84◎ オリエントレコード総目録。(昭和3年3月発売レコードまで)	
1931 (昭6)	YM2-L184◎ オリエントレコード。[昭和6年] 8月新譜	1枚物。昭和6年7月までの既発売目録あり

キング（講談社）

メモ：

・洋のレーベル名は「日本テレフンケンレコード」

■ 概要 ■

1931（昭和6） 大日本雄弁会講談社がキングレコードの第1回新譜を発売（当初、吹込み等は日本ポリドールに委託）

1935（昭和10） 独テレフンケンと原盤供給契約を締結

1936（昭和11） 自社吹込みを開始

1942（昭和17） 大日本蓄音器(株)よりタイハイ、ニッターの原盤、建物等の一切を買収。講談社西宮工場として発足させる。
キングレコードを「富士音盤」に改称

1944（昭和19） レコード事業等を「大日本録音工業社」とする（戦後、社名変更の後「キング音響(株)」として講談社から独立）

→[「タイハイ」の項も参照](#)

«参考文献» (【 】内は当館請求記号)

『キングレコードの六十年』キングレコード, 1991. 【YU21-H114】

岡田則夫「続・蒐集奇談」『レコード・コレクターズ』【Z11-1283】第二十五回（1992.12, pp.130-135）

	邦・洋	邦	備考
1938（昭13）			(参考) YM2-184●：『1938年のレコード表』（レコード音楽社） →1938年頃発売の洋楽レコード情報を収載（キングほか14社） →作曲家の50音順にレコードを列挙。発売番号と、一部発売年月の記載あり
1939（昭14）		YM2-82○	
1940（昭15）		YM2-L22◎	
1941（昭16）	YM2-118○		
1942（昭17）			
1943（昭18）	YM2-L113◎ 特選盤・推薦盤抜萃目録		

コッカ

■ 概要 ■

- 1929（昭和4）頃 大阪の国際セルロイド工業(株)がコッカレコードを発売（同時期に「国家レコード製作所」が設立されたとする資料もある）
 ※ コッカレコード：当初は子ども向けの6インチ盤等がメイン。初期のレーベルは「國家」という漢字の表記だったが、のちに「KOKKA／コッカ」の表記となった。
- 1931（昭和6）頃 国際セルロイド工業が国際工業(株)に社名変更
- 1935（昭和10） コッカ蓄音器レコード合資会社を設立
- 1936（昭和11） コッカレコード(株)を設立（コッカ蓄音器レコード合資会社は翌1937年に解散）

≪参考文献≫（【 】内は当館請求記号）

岡田則夫「続・蒐集奇談」『レコード・コレクターズ』[Z11-1283] 第十九回（1992.6, pp.104-109）

『関西発レコード120年』『神戸新聞』[YB-32] 第7部 <8>「国家（コッカ）レコード」1999.1.18.

青字はデジタル化済み（国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能）

		備考
1937（昭12）	YM2-M2373（*） [コッカレコード][昭和12年]	新譜情報（品番8375～8378） + 既発売目録
	YM2-M2374（*） プレゼントレコード(3回)、コッカレコード7月新譜目録附総目録	新譜情報（コッカ 8387～8392, プレザント60028～60031） + 既発売目録 エイトレコード（子供用の8インチ盤）既発売目録を含む。
	YM2-M2375（*） コッカレコード9月新譜及抜萃目録、プレゼントレコード新譜目録	新譜情報（コッカ 8394～8404） + 既発売目録 ※プレゼント既発売のみ エイトレコード既発売目録を含む。

コロムビア、リーガル、ラッキー（日本蓄音器商会／日蓄工業）

日蓄のレーベルの変遷などについては、
別紙「日蓄／日本コロムビア系列の会社変遷」を参照

«参考文献»（【 】内は当館請求記号）

岡田則夫「続・蒐集奇談」『レコード・コレクターズ』【Z11-1283】第二十八回（1993.4, pp.104-109）、第三十回（1993.5, pp.106-111） ※第二十九回は欠番

青字はデジタル化済み（国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能）

	邦	洋	その他	備考
1927（昭2）		YM2-73○ 総目録+第3回新発売 YM2-M2716◎ 総目録+第5回新発売		（出版者：日本蓄音器商会） （参考） 『コロムビア50年史』日本コロムビア, 1961. 【769.067-N6842c】 1927年7月、「第1回洋楽レコード発売」との記載あり （巻末「50年年表」 国立国会図書館デジタルコレクション212コマ目）
1928（昭3）	YM2-32○ コロムビアレコード総目録：邦楽の部 [1928] ※			（以降の出版者：日本コロムビア蓄音器） ※1928（昭和3）年10月にニッポノホンの大部分をコロムビア商標へと変更 発売した際の、変更分の目録と見られる（→出版年を1928年と推定）
1929（昭4）	YM2-95○ コロムビアレコード総目録：電気吹込（邦楽・洋楽）		YM2-M291◎教育レコード第2回	以下の欧文表記版もあり（「欧文表記のレコード目録」所蔵リストも参照） YM2-A35○
1930（昭5）	YM2-32●邦楽・教育 YM2-32○ ①（1930年後半）	YM2-35○ ② YM2-R29◎ 後半期：8月新譜迄	YM2-62○教育 ③ YM2-M288◎教育レコード内容説明 書（3月新譜迄）	合冊 ①邦楽（YM2-32）：1930年後半、1931年版 ②洋楽（YM2-35）：1930・31年版 ③教育（YM2-62）：1930・31・35年版
1931（昭6）	YM2-32○ ①	YM2-35○ ②	YM2-62○教育 ③	以下の欧文表記版もあり（「欧文表記のレコード目録」所蔵リストも参照） YM2-A34○：1930

青字はデジタル化済み（国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能）

	邦	洋	その他	備考
1932 (昭7)	YM2-32○正月新譜迄 ※ YM2-32●追加ノ分 YM2-M2499○6月新譜迄	YM2-35○ YM2-M310○ (増補版)	YM2-L14○教育 (5月発売迄) YM2-M346○ YM2-M2182○	※邦楽 (YM2-32) : 開架資料は一部切取あり (pp.77-78) →切取のない完本が書庫にあり (資料貼付ID : 1202100187140) YM2-M346 : 春季大宣伝レコード →文句集、29曲ほど収録。昭和7年2~5月新譜 (4月20日発売) のよう YM2-M2182 : 児童のためのレコードの選び方 →教育用レコードの解説集。歌詞の収録あり
1933 (昭8)	YM2-32○ YM2-69○リーガル ④	YM2-M311○ YM2-R104○第2版	YM2-L15○教育	合冊 ④リーガル (YM2-69) : 1933・35・36・37年版 以下の欧文表記版もあり (「欧文表記のレコード目録」所蔵リストも参照) YM2-B14○
1934 (昭9)	YM2-32○ YM2-32○第2版 YM2-M2451○後期:6月新譜迄 YM2-M2353 (*) リーガル (1933年12月新譜迄)	YM2-35○第2版	YM2-L16○教育	以下の欧文表記版もあり (「欧文表記のレコード目録」所蔵リストも参照) YM2-B15○
1935 (昭10)	YM2-32○ YM2-69○リーガル ④	YM2-35○	YM2-62○教育 ③ YM2-66○教育特選	(以降の出版者 : 日本蓄音器商会) 合冊 ④リーガル (YM2-69) : 1933・35・36・37年版 ③教育 (YM2-62) : 1930・31・35年版 以下の欧文表記版もあり (「欧文表記のレコード目録」所蔵リストも参照) YM2-B6○
1936 (昭11)	YM2-32○ YM2-69○リーガル ④	YM2-35○ YM2-H679○ラッキー-抜粋	YM2-M2701○教育学芸 YM2-M2717○抜萃 (6月発売迄)	合冊 ④リーガル (YM2-69) : 1933・35・36・37年版 以下の欧文表記版もあり (「欧文表記のレコード目録」所蔵リストも参照) YM2-36○
1937 (昭12)	YM2-32○ YM2-69○リーガル ④	YM2-35○	YM2-L17○教育学芸 YM2-M1195○日本歴史歌絵巻 (教育レコード (S143-S148) 附録の文句集)	合冊 ④リーガル (YM2-69) : 1933・35・36・37年版 以下の欧文表記版もあり (「欧文表記のレコード目録」所蔵リストも参照) YM2-37○ : ラッキーも含む

	邦	洋	その他	備考
1938 (昭13)	YM2-79○邦楽・リーガル	YM2-L69◎洋楽・ラッキー		(参考) YM2-184● : 『1938年のレコード表』(レコード音楽社) →1938年頃発売の洋楽レコード情報を収載(コロムビアほか14社) →作曲家の50音順にレコードを列挙。発売番号と、一部発売年月の記載あり
1939 (昭14)	YM2-79○邦楽・リーガル	YM2-80○洋楽・ラッキー	YM2-68○教育学芸	
1940 (昭15)	YM2-79●邦楽・リーガル	YM2-L225◎洋楽・ラッキー		
1941 (昭16)	YM2-M1158◎邦楽・リーガル	YM2-M1159◎ ※コロムビアのみ	YM2-L185◎教育	
1942 (昭17)	YM2-79●邦楽・リーガル抜粋	YM2-L226◎コロムビア抜粋		
1943 (昭18)			YM2-M1186◎日本民謡全集	(以降の出版者: 日蓄工業) YM2-M1186 →発売番号100702~100713の歌詞、解説を収録

(参考) 日蓄／日本コロムビア系列の会社変遷

※青字はレーベル名

	日蓄／日本コロムビア	三光堂	スタンダード蓄音器	帝国蓄音器商会	東京蓄音器	東洋蓄音器
1899 明治32		松本武一郎が、浅草に蝸管蓄音器店として 設立				
1904 明治37		英グラモフォンの出張録音盤を発売				
1907 明治40	FW.ホーン、現在の川崎市に日米蓄音器製造(株)を 設立	松本武一郎が日米蓄音器製造の設立に協力（その後に死去）				
1909 明治42	「シンホニー」「ロイヤル」「アメリカン」「ユニバーサル」「グローブ」の片面盤を発売		蓄音器の輸入販売の広告を東京朝日新聞等に掲載。 年末から翌年にかけて、三光堂の商品を引き受けて売却			東洋蓄音器(株)の前身となる東洋蓄音器商会が、レコードの製造を開始
1910 明治43	(株)日本蓄音器商会（以下、「日蓄」） 設立					
1911 明治44		スタークトン（象印）を発売。 三光堂の自社レーベルには、ほかにメノホン（ライオン印、孔雀印）、クラウン（王冠印）がある。 合同蓄音器になった後はライオンレコードというレーベル名が使われた				
1912 明治45 / 大正元	日蓄が日米蓄音器製造を吸収し、製造・販売を一本化			設立 ヒコーキ、スピックス		東洋蓄音器(株) 設立 オリエント（ラクダ印）
1913 大正2					設立 東京レコード（富士山印）	
1915 大正4	不正複製盤排除のため片面盤を回収、両面盤に切り替えレーベルを「ニッポノホン（ワシ印）」に統一					
1916 大正5						東洋蓄音器合資会社に組織変更
1919 大正8						日蓄に買収される 。同社は日蓄京都工場となる。 オリエントレーベルは1932（昭和7）年まで存続
1920 大正9			日蓄に買収される			
1921 大正10				日蓄に買収される スピックスは1924（大正13）年まで存続		
1923 大正12		日蓄に買収される			日蓄に買収される	
1925 大正14		「三光堂」「スタンダード蓄音器」「帝国蓄音器商会」「東京蓄音器」が合併し、 合同蓄音器(株) となる				
1926 大正15 / 昭和元		合同蓄音器の新譜がヒコーキのみとなる（ライオン、フジサンはこの時期に廃止）				

	日蓄／日本コロムビア	合同蓄音器	日蓄京都工場
1927 昭和2	英コロムビア傘下に入る。 コロムビア洋楽レコード（黒盤）を発売		
1928 昭和3	1月、日蓄の子会社として日本コロムビア蓄音器(株)設立。 10月、新営業方針の発表。 ニッポノホンの大部分はコロムビア商標へと変更発売。 コロムビアレコードが主力商品となったことから、ニッポノホンは傍系レーベルとなる（呼称は1928（昭和3）年頃にはワシ印レコード、1930（昭和5）年からはイーグルレコードと変遷）		
1929 昭和4			京都工場閉鎖。オリエントレーベルは以後川崎工場で製造
1932 昭和7	前年末～年始頃にイーグルを廃止 12月、大衆盤リーガルの発売開始	合同蓄音器(株)解散。商標権、営業権を日蓄に移譲。日蓄がヒコーキを廃止 → 旧イーグル、ヒコーキ、オリエントの多くをリーガルで再発（リーガルは1943年2月頃まで存続）	オリエントを廃止
1935 昭和10	日蓄の経営権を日本産業(株)に譲渡（外資から離脱し、日産コンツェルン傘下へ）。 洋楽レーベル・ラッキーの発売開始		
1937 昭和12	日蓄の経営権を東京電気(株)（後の東芝）へと移管		
1942 昭和17	日蓄工業(株)に社名変更。 ラッキーを廃止		
1946 昭和21	日本コロムビア(株)に社名変更		

（注意事項）

- ・上記の「（ヒコーキ、スピックスの）帝国蓄音器商会」と、1934年に設立された「(株)帝国蓄音器」（テイチク）は別の会社。
- ・また、上記の「スタンダード蓄音器」も、テイチクの前身に当たる「スタンダード・レコード」とは別の会社。
- ・リーガルレコードの第1回発売は1933（昭和8）年1月新譜だが、発売日は前年の12月15日であることが当時の『日蓄ニュース』から確認できる。（第3巻第12号【YM2-M34】、p.1）

（参考資料） 【 】内は当館請求記号

「会社沿革」日本コロムビア株式会社ウェブサイト <<https://columbia.jp/company/corporate/history/>>

『日蓄(コロムビア)三十年史』日本蓄音器商会, 1940.【773-157】（国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可 <<https://dl.ndl.go.jp/pid/12434731>>）

『コロムビア50年史』日本コロムビア, 1961.【769.067-N6842c】

「SPレコード センターレーベルてめぐい」コロムビアミュージックショップ <<https://shop.columbia.jp/shop/g/gW5733/>>

倉田喜弘『日本レコード文化史』東京書籍, 1979.【KD355-4】（国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可 <<https://dl.ndl.go.jp/pid/12434731>>）

大西秀紀 編『SPレコードレーベルに見る日蓄-日本コロムビアの歴史』京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター, 2011.【DL731-J229】
（ウェブ版： <<https://rijtm.kcua.ac.jp/archive-db/archives/gallery/1008ohnishi/index.html>>）

生明俊雄「日本レコード産業の生成期の牽引車＝日本蓄音器商会の特質と役割」『広島経済大学経済研究論集』【Z3-1409】30巻1・2号, 2023. <<https://hue.repo.nii.ac.jp/records/913>>

東洋蓄音器について：
大西秀紀「京都のレコード会社 東洋蓄音器（オリエントレコード）について」『ART RESEARCH』vol.23-2, 2022.12.19. <<https://www.arc.ritsumei.ac.jp/download/ar/ar23-2/02/ar23-2-02ho.pdf>>

三光堂（出張録音、ライオンほか）→合同蓄音器

■概要■

- 1899（明治32） 松本武一郎が、浅草に蠟管蓄音器店として三光堂を設立
 ※ 蠟管：エジソンらが開発した円筒形のレコード（シリンダー）。後に登場した円盤形のレコード（平円盤）に取って代わられる。
- 1904（明治37） 英グラモフォンの出張録音盤（平円盤）を発売
- 1911（明治44） スタークトン（象印）を発売
 → 三光堂が発売した独ライロホンとスタークトンの複雑な関係については、下記の参考文献欄に挙げた「続・蒐集奇談」第八回を参照のこと。
- 1923（大正12） 日本蓄音器商會に買収される。買収時の業種は「ライオン印、孔雀印、王冠印レコード並にメノホン蓄音器製造元」
- 1925（大正14） 東京蓄音器（富士山印）、帝国蓄音器商會（ヒコーキ）、スタンダード蓄音器と合併し、合同蓄音器(株)となる。レーベル名は「ライオンレコード」となる
- 1932（明治7） 合同蓄音器(株)解散。商標権、営業権は日蓄に移譲

→出張録音については、「その他の出張録音目録」の項も参照

→「日蓄／日本コロムビア系列の会社変遷」も参照

≪参考文献≫（【 】内は当館請求記号）

倉田喜弘『日本レコード文化史』東京書籍, 1979, pp.70-76ほか。【KD355-4】（国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能 <<https://dl.ndl.go.jp/pid/12434731/1/42>>）

岡田則夫「続・蒐集奇談」『レコード・コレクターズ』【Z11-1283】第七回（1991.4, pp.110-115）、第八回（1991.5, pp.102-107）、第十二回（1991.9, pp.98-104）

青字はデジタル化済み（国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能）

		備考
年不明	GB411-144（備考欄参照） pp.312-323 に下記資料の翻刻あり 平円盤新曲譜目録 →米コロムビアの出張録音盤（日本譜・朝鮮譜）目録	GB411-144：『近代庶民生活誌、第8巻（遊戯・娯楽）』三一書房, 1988. 解題は p.499. （音楽・映像資料室開架資料）
[1900年代]	YM2-M2559 ◎ [三光堂の吹込]	扱っている曲目を種類別に列記。型番情報は記載されていない。
[1905（明38）]	YM2-M2319 (*) 蓄音器用蠟管音譜表 [明治38年]	蠟管はG号大形、P号小形の2種類で販売。 型番情報なく、部門別に曲名が記載されている。

		備考
1905 (明38)	YM2-M2261◎ 平円盤発音器曲名表 明治38年7月1日改正 →英グラモフオンの出張録音盤目録	YM2-M2261 : 「甲ノ部」「乙ノ部」「丙ノ部」の3枚。 「戦時税賦課の為38年7月1日改正」 「英国倫敦グラモホン製造会社平圓盤東洋一手発売元 三光堂本店」と記載あり。 (参考) 『大聲蓄音器平圓盤發音器定價表』三光堂, 1905.7.【Y93-M4546】 →「明治38年7月改正」とあり (YM2-M2261と同時期の刊行)。 扱っているのは平円盤 (明治期のディスク式レコード)、蠟管 (シリンダー) の蓄音器。
年不明 [明治40年代]	GB411-144 (備考欄参照) pp.312-323 に下記資料の翻刻あり 独逸国ベカーレコード会社製 平円盤日本譜目録	GB411-144 : 『近代庶民生活誌. 第8巻 (遊戯・娯楽)』三一書房, 1988. 解題は p.500-501. (音楽・映像資料室開架資料)
1907 (明40)	YM2-M2267◎ 蓄音器説明附定価表歌目録 →米コロムビアの出張録音盤目録	収録内容に蠟管も含む
1911 (明44)	YM2-L98◎ 独逸国ライロホン会社製造 starkton両面新音譜目録 →独ライロホン・ウエルケ社の出張録音盤目録	レーベルはライロホン (旗印) とスタクトーン (象印) を収録。 ※発売番号は、下記資料を参照 (音楽・映像資料室開架資料)。 『近代庶民生活誌. 第8巻』三一書房, 1988.【GB411-144】 →pp.349-370に当該目録が翻刻されている (解題は pp.501-502)。

		備考
1926 (大15/ 昭1)	YM2-43○ ヒコーキ・富士山・ライオン	<p>(以降の出版者：合同蓄音器) YM2-43：大正15年10月新譜まで</p> <hr/> <p>(参考) YM2-M139：文部省推薦認定レコード目録 第2輯 →凡例に以下の記載あり。 「本目録は大正14年第一輯発表以後昭和元年12月迄の間本省に於いて認定したるレコード42種90枚及び推薦せるレコード478種648枚を整理輯録したものである。」 合同蓄音器のレコード（ヒコーキ・富士山・ライオン）も対象。 ・推薦番号順に「種類、題目、演奏者、枚数、発売番号、目的別、出願者（レコード会社）」を記載。 ・「種類」は唱歌や洋楽、浪花節など各ジャンルのほか、映画説明などもあり。 ・「目的別」は児童的、娯乐的、芸術的、教育的の別。</p>

ショーワ（昭和レコード製作所）、ショーチク（ショーチクレコードスタジオ）

■概要■

- 1928（昭和3） 片岸玄次郎が京都市東山区に昭和レコード製作所を設立。ショーワレコードを発売
 1933（昭和8） 工場を伏見区に移し、ショーチクレコードスタジオに社名変更、ショーチクレコードを発売。東京市京橋区に吹込所を設立

≪参考文献≫（【 】内は当館請求記号）

藤井勇二 編著『業界年鑑興信録：拾周年記念 初編』商品興信新聞出版社、1936、p.166。【特236-29】

※上記資料では片岸玄次郎の経歴が紹介されている（国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能 <<https://dl.ndl.go.jp/pid/1107665/1/90>>）

岡田則夫「続・蒐集奇談」『レコード・コレクターズ』【Z11-1283】第二十一回（1992.8、pp.100-105）

		備考
年不明	YM2-194 ● ショーワレコード：新音譜	ビラ（「本月新譜」「総目録」を含む）
	YM2-M2567 ◎ 新ノーマルレコード：既発売総目録：黒盤十吋両面電気吹込	ノーマルレコード：昭和レコード製作所／ショーチクレコードスタジオが請負製造していたレーベルの一つ。発行者は浅草の八欧商店／八尾楽器店（八尾敬次郎）。 ショーチクのほか、コッカレコードでも請負製造していたとの情報もある。
年不明 [1930年代]	YM2-H681 ● ショーチクレコード既発売総目録	YM2-H681：番号S1-56を収録 →『新譜目録 第10回（[昭和10年]7月）』（YM2-M2370）が番号S117-131を収録しているため、1935年より前の刊行と推定できる
1935（昭10）	YM2-M2581 ◎ ショーチクレコード：蓄音器祭記念特別大売出し	

スタンダード

■ 概要 ■

1930（昭和5）頃 南口重太郎や、弟の南口豊治が大阪・千船橋で「スタンダード・レコード」を経営。「楠公印」のレーベルを使用（後にテイチクでも使用）

1931（昭和6） 南口兄弟らが奈良に合資会社帝国蓄音器商会を設立

1934（昭和9） 帝国蓄音器(株)に改組。大阪・千船橋の施設はプレス工場の一つとして使われ（順次設備が奈良に集められた）、スタンダード・レコードは大衆向き廉価盤のレーベルとなった

[→「テイチク」の項も参照](#)

≪参考文献≫（【 】は当館請求記号）

「関西発レコード120年」『神戸新聞』【YB-32】

第7部 <11>「テイチクの黎明期 上」1999.1.21, <12>「テイチクの黎明期 下」1999.1.23.

青字はデジタル化済み（国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能）

		備考
1935（昭10）	YM2-M2372（*） 邦楽総目録	

タイハイ（太平蓄音器／大日本蓄音器）

■ 概要 ■

- 1924（大正13） 松田文蔵、森垣二郎らが兵庫県西宮市に合資会社内外蓄音器商会（貝印内外レコード）を設立
- 1930（昭和5） 内外蓄音器商会を解散し、太平蓄音器(株)を設立。タイハイレコード（貝星印ほか）を発売
- 1935（昭和10） 日東蓄音器（ニットーレコード）、日本クリスタル蓄音器（クリスタルレコード）と経営統合し、両社の持株会社・大日本蓄音器を設立
（以後タイハイレコードをメインとし、クリスタルは洋楽、ニットーレコードはサブレーベルとして存続）
- 1942（昭和17） 国家総動員法下の企業統合政策により、大日本蓄音器が大日本雄弁会講談社（キングレコード）に強制的に買収される

→「内外レコード【貝印】」の項も参照

→「ニットー【ツバメ印】」の項も参照

→「キング」の項も参照

≪参考文献≫（【 】内は当館請求記号）

岡田則夫「続・蒐集奇談」『レコード・コレクターズ』【Z11-1283】第十四回（1991.11, pp.92-99）

「関西発レコード120年」『神戸新聞』【YB-32】

第7部 <14>「内外からマーキュリーへ ②」1999.1.25, <15>「内外からマーキュリーへ ③」1999.1.26.

青字はデジタル化済み（国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能）

		備考
1931（昭6）～ 1935（昭10）	月報各号（YM2-137ほか）にタイハイレコード総目録の掲載あり ※一部デジタル化済み（YM2-M64～M71など）	（出版者：太平蓄音器） 所蔵状況は戦前月報の所蔵リスト「タイハイ」の項を参照
1935（昭10）	YM2-M2403（*） コメントレコード：発売総目録 第2回	附・第1回発売目録 コメントレコードは、1934年12月から発売された廉価盤。
1937（昭12）	YM2-87○ タイハイレコード・ニットーレコード総目録 YM2-L74◎ タイハイレコード時局臨時発売。[昭和12年] YM2-L76◎ [タイハイレコード時局盤新譜]。[昭和12年] YM2-M2536◎ タイハイ ニットー クリスタル合同ショウ：於大劇競演歌詩集	（以降の出版者：大日本蓄音器） クリスタル、コメント、キリン、朝鮮曲盤（内容はハングルと漢字）を含む 形態はいずれも1枚物。 ※臨時発売等の情報のため、月報の所蔵リストも併せて参照のこと

青字はデジタル化済み（国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能）

		備考
1938（昭13）		（参考） YM2-184●：『1938年のレコード表』（レコード音楽社） →1938年頃発売の洋楽レコード情報を収載（タイハイ、ニットー、クリスタルほか14社） →作曲家の50音順にレコードを列挙。発売番号と、一部発売年月の記載あり
1939（昭14）	YM2-M435（*） タイハイレコード・ニットーレコード・クリスタルレコード総目録 昭和14年度版	
1940（昭15）	YM2-L87◎ タイハイレコード・ニットーレコード・クリスタルレコード総目録. 昭和15年度版 （昭和15年正月新譜まで記載）	

太陽レコード (太陽蓄音器)

■ 概要 ■

1931 (昭和6) 佐々井譲治らが太陽蓄音器(株)を設立。翌年3月に太陽レコード第1回発売

1933 (昭和8) 経営不振に陥り、経営を「東京レコード製作所」に移管

[→「彌生 \(東京レコード製作所\)」の項も参照](#)

«参考文献» (【 】内は当館請求記号)

岡田則夫「続・蒐集奇談」『レコード・コレクターズ』【Z11-1283】第二十回 (1992.7, pp.106-111)

		備考
1933 (昭8)	YM2-191○ 太陽レコード総目録	発行元について：「製作卸問屋 野地良彦商店」と記載あり 出版年について： 下記資料等から昭和8年と推定。 倉田喜弘『演芸レコード発売目録』国立劇場, 1990.【KD1-E21】 pp.378-379.「浪花節 昭和8年 (1933)」 (音楽・映像資料室開架資料)

ツル、アサヒ（大和蓄音器／アサヒ蓄音器）

■ 概要 ■

- 1923（大正12） 花井孝一、伊藤源之助、神野金之助（二代目）が名古屋に「（匿名組合）大和蓄音器商会」を設立。翌年からツルレコードを発売
- 1925（大正14） 大和蓄音器を継承する形で（株）アサヒ蓄音器商会を設立（社長に神野三郎、取締役役に福永孝蔵らが就任）
- 1936（昭和11） メインレーベルを「アサヒ」に変更
- 1939（昭和14） 建物等を金壺ゴム（株）に売却、株式の過半数を大阪の中西万次郎（中西商会）らに売却。翌年に新譜の発売を停止
- 1943（昭和18） （株）アサヒ蓄音器商会からアサヒ合成工業（株）に社名変更

«参考文献»（【 】内は当館請求記号）

『神野三郎伝』中部瓦斯，1965，pp.544-546。【289.1-Ka462Kk】（国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能 <<https://dl.ndl.go.jp/pid/3026106/1/281>>）

菊池清麿『ツルレコード昭和流行歌物語』人間社，2015。【KD841-L536】 ※巻末にツルレコードのディスコグラフィあり

辻田真佐憲『愛国とレコード：幻の大名古屋軍歌とアサヒ蓄音器商会』えにし書房，2014。【KD319-L35】

岡田則夫「続・蒐集奇談」『レコード・コレクターズ』【Z11-1283】第十六回（1992.3，pp.107-113）、第十七回（1992.4，pp.98-103）

『関西発レコード120年』『神戸新聞』【YB-32】

第7部 <4>「アサヒ蓄音器 上」1999.1.12，<5>「アサヒ蓄音器 中」1999.1.13，<6>「アサヒ蓄音器 下」1999.1.14。

青字はデジタル化済み（国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能）

		備考
1924（大13）	YM2-L86 ◎ アサヒレコード総目録。[大正13年]	形態：1枚物
1925（大14）～ 1933（昭8）	月報各号（YM2-188、189ほか）にツルレコード総目録/特選目録の掲載あり ※一部デジタル化済み（ YM2-M436～441 ， M2376～2379 ）	所蔵状況は戦前月報の所蔵リスト「ツル」の項を参照 ※1928（昭和3）年10月（YM2-188）、1934（昭和9）年2月（YM2-M2380）は新譜情報のみ
年不明 [1930年代]	YM2-M2404 （*） スワンレコード：総目録	「発売記念宣伝盤『浪花節 小猿七之助』」の記載から、スワンの初回目録と推察される ・スワンレコード：アサヒ蓄音器が請負製造していたレーベルの一つ。発行者は愛知蓄音器商会。
1936（昭11）	YM2-M1196 ◎ シスターレコード歌詞集：現代歌謡集：合本	1936年7月迄に発売されたレコードの歌詞カード集。発行者は合資会社シスター商会 ・シスターレコード：ツルレコードの再発レーベル。アサヒ蓄音器には、このような傍系レーベルがサンデー（昭和10年頃まで発売）、シスターをはじめ多数存在した。

青字はデジタル化済み（国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能）

		備考
1938（昭13）	YM2-M2381（*） アサヒレコード抜粋目録「昭和13年」	裏面の全面広告（漢口陥落）から、昭和13年10月以降の刊行と推察される （参考） YM2-184●：『1938年のレコード表』（レコード音楽社） →1938年頃発売の洋楽レコード情報を収載（アサヒほか14社） →作曲家の50音順にレコードを列挙。発売番号と、一部発売年月の記載あり
1939（昭14）	YM2-M2382（*） アサヒレコード総目録「昭和14年」	

テイチク

■ 概要 ■

- 1931 (昭和6) 南口重太郎らが奈良に合資会社帝国蓄音器商會を設立。翌年にテイチクレコードを発売
- 1934 (昭和9) 帝国蓄音器(株)に改組
- 1944 (昭和19) 帝蓄工業(株)へと社名変更

→「スタンダード」の項も参照

◀参考文献▶ (【 】内は当館請求記号)

「テイチク社史 1934～2024、90年の軌跡」<<https://www.teichiku.co.jp/90th/history/>>

『レコードと共に五十年』テイチク, 1986.【DH22-E14】

岡田則夫「続・蒐集奇談」『レコード・コレクターズ』【Z11-1283】第二十五回(※) (1993.1, pp.92-99)

※この回は連載の採番ミスで、1回前のキングと同じ「第二十五回」となっている(また、次の回は「第二十六回」となっている)

青字はデジタル化済み(国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能)

		備考
1934 (昭9) ~ 1943 (昭18)	月報各号 (YM2-93ほか) に総目録/抜粋目録の掲載あり ※一部デジタル化済み (YM2-M442~483, M2386~2388, M2390)	所蔵状況は戦前月報の所蔵リスト「テイチク」の項を参照 ※概ね1936 (昭和11) 年までは総目録を、1937 (昭和12) 年以降は抜粋目録を掲載
1934 (昭9)	YM2-M2531◎ 流行歌大豪華盤 : テイチクレコード	1934年1月発売の以下の盤の歌詞(一部のみの曲もあり)を掲載した1枚物。 「鐘が鳴る」(発売番号5600-A)、「雲のゆくへ」(5600-B)、 「峠を越へて」(5601-A)、「温泉小唄」(5601-B)、 「小雨の港」(5602-A)、「非常時音頭」(5630)
1937 (昭12)	YM2-H678● 昭和12年前期	昭和12年1月新譜まで収録
1938 (昭13)		(参考) YM2-184● : 『1938年のレコード表』(レコード音楽社) →1938年頃発売の洋楽レコード情報を収載(テイチクほか14社) →作曲家の50音順にレコードを列挙。発売番号と、一部発売年月の記載あり
1939 (昭14)	YM2-M2389 (*) テイチクレコード : 特選抜粋目録	

東京レコード【富士山印】（東京蓄音器／合同蓄音器）

■概要■

- 1913（大正2） 米山正らが東京蓄音器を設立。商標は富士山印
- 1923（大正12） 日本蓄音器商會に買収される
- 1925（大正14） 三光堂（ライオンほか）、帝国蓄音器商會（ヒコーキ）、スタンダード蓄音器と合併し、合同蓄音器(株)となる。レーベルは富士山印を引き続き使用
- 1932（昭和7） 合同蓄音器(株)解散。商標権、営業権は日蓄に移譲

→「[日蓄／日本コロムビア系列の会社変遷](#)」も参照

≪参考文献≫（【 】内は当館請求記号）

山口亀之助『レコード文化発達史 第1巻』録音文献協会，1936，pp.189-193。【706-12】（国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能 <<https://dl.ndl.go.jp/pid/1231268/1/123>>）

倉田喜弘『日本レコード文化史』東京書籍，1979，pp.204-210。【KD355-4】（国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能 <<https://dl.ndl.go.jp/pid/12434731/1/109>>）

岡田則夫「続・蒐集奇談」『レコード・コレクターズ』【Z11-1283】第十二回（1991.9，pp.98-104）

青字はデジタル化済み（国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能）

		備考
1917（大6）		<p>（参考）</p> <p>『大正期SP盤レコード 芸能・歌詞・ことば全記録 第10巻』【KD355-G8】</p> <p>※『東京レコード文句集 第1集』（東京蓄音器，大正6年9月30日刊）の復刻版。</p> <p>分野別に演目・演者・発売番号、レコードの詞章（歌詞・言葉などレコードの内容）の記載あり。</p> <p>（音楽・映像資料室開架資料）</p>
1919（大8）	YM2-L157● 富士山印東京レコード総目録.[大正8年]	<p>（出版者：東京蓄音器）</p> <p>[1] [2] の2冊あり。</p> <p>→ [1] 旧劇の部ほか</p> <p>→ [2] 琴曲、三曲、尺八、ヴァイオリン、大正琴、手風琴、ハーモニカ、芝笛の部ほか</p> <p>*オリジナルは1枚もの（折りたたみ）で表・裏の両面印刷と思われる。</p> <p>[1] = 表 [2] = 裏</p> <p>（参考）</p> <p>『大正期SP盤レコード 芸能・歌詞・ことば全記録 第11巻』【KD355-G8】</p> <p>※『東京レコード文句集 第2集』（東京蓄音器，大正8年10月1日刊）の復刻版。</p> <p>分野別に演目・演者・発売番号、レコードの詞章（歌詞・言葉などレコードの内容）の記載あり。</p> <p>（音楽・映像資料室開架資料）</p>

青字はデジタル化済み（国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能）

		備考
1926（大15／ 昭1）	YM2-L132（*） ヒコーキ・フジサン（「大正」15年1月発売迄）	（以降の出版者：合同蓄音器）
	YM2-43○ ヒコーキ・富士山・ライオン	大正15年10月新譜まで
		（参考） YM2-M139：文部省推薦認定レコード目録 第2輯 →凡例に以下の記載あり。 「本目録は大正14年第一輯発表以後昭和元年12月迄の間本省に於いて認定したるレコード42種90枚及び推薦せるレコード478種648枚を整理輯録したものである。」 合同蓄音器のレコード（ヒコーキ・富士山・ライオン）も対象。 ・推薦番号順に「種類、題目、演奏者、枚数、発売番号、目的別、出願者（レコード会社）」を記載。 ・「種類」は唱歌や洋楽、浪花節など各ジャンルのほか、映画説明などもあり。 ・「目的別」は児童的、娯乐的、芸術的、教育的の別。

特許レコード【金鳥印/蝶印】（特許レコード製作所）

■概要■

1921（大正10）頃 酒井欽三が大阪・心斎橋で経営していた酒井公声堂（1909（明治42）年設立）が、蝶印レコード（子ども向けの7インチ盤）を発売
（特許レコード製作所を設立後、原盤をそちらに移行）

1925（大正14） 酒井が新たに設立した特許レコード製作所（兵庫県尼ヶ崎）が、専売特許の「ふんでも、たゝいても こわれぬ」盤質を売りとして、金鳥印レコードを発売

1935（昭和10） 特許レコード製作所が日本児童レコード製作所に買収される

1937（昭和12） 廃業。原盤は昭蓄、福永、コッカレコード等に譲渡される

→「[エトワール、テレフケン（福永）](#)」の項も参照 ※福永レコードプロダクションは特許レコード製作所より買収した児童盤を「ファストレコード」として発売

≪参考文献≫（【 】は当館請求記号）

『関西発レコード120年』『神戸新聞』【YB-32】

第7部 <1>「特許レコード製作所 上」1999.1.9, <2>「特許レコード製作所 下」1999.1.10.

『蓄音機レコード製作所並発行所明細表. 昭和13年末現在』内務省警保局圖書課, [1938], p.21. 【D4-J169】

（国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能 <<https://dl.ndl.go.jp/pid/1881757/1/25>>）

青字はデジタル化済み（国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能）

		備考
1927（昭和2）	YM2-M2269◎ 金鳥印特許レコード総目録	
年不明 [1930年代]	YM2-M2366（*） 蝶印レコード	童謡・唱歌・軍歌・漫談・萬歳等を掲載。

内外レコード【貝印】（内外蓄音器）

■概要■

1924（大正13） 松田文蔵、森垣二郎らが兵庫県西宮市に合資会社内外蓄音器商会を設立。翌年3月に貝印内外レコード第1回発売

1930（昭和5） 内外蓄音器商会を解散し、太平蓄音器(株)を設立

[→「タイハイ」の項も参照](#)

≪参考文献≫（【 】内は当館請求記号）

岡田則夫「続・蒐集奇談」『レコード・コレクターズ』【Z11-1283】第十四回（1991.11, pp.92-99）

「関西発レコード120年」『神戸新聞』【YB-32】

第7部 <13>「内外からマーキュリーへ ①」1999.1.24, <14>「内外からマーキュリーへ ②」1999.1.25.

青字はデジタル化済み（国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能）

		備考
1925（大14）	YM2-M2324（*） 貝印内外レコード総目録 [大正14年] 12月調	
1926（昭1）	YM2-M2325（*） 貝印内外レコード総目録 大正15年3月調	
1927（昭2）	YM2-H686● 貝印内外レコード総目録 昭和2年2月調	

ニットー【ツバメ印】（日東蓄音器）

■概要■

- 1920（大正9） 白山善五郎、森下辰之助らが大阪に日東蓄音器を設立。翌年3月に第1回新譜発売
 1934（昭和9） 日本クリスタル蓄音器合資会社を設立。12月にドイツ原盤のクリスタルレコードを発売（翌年4月にはクリスタル邦盤も発売）
 1935（昭和10） 太平蓄音器との経営統合により、両社の持株会社・**大日本蓄音器**を設立（以後タイヘイレコードをメインとし、クリスタルは洋楽、ニットーレコードはサブレーベルとして存続）

[→1935（昭和10）年以降は「タイヘイ」の項を参照](#)

≪参考文献≫（【 】内は当館請求記号）

岡田則夫「続・蒐集奇談」『レコード・コレクターズ』【Z11-1283】第十三回（1991.10, pp.92-98）

		備考
1921（大10）～ 1935（昭10）	ニットータイムス各号（YM2-96ほか）に総目録/抜粋目録の掲載あり	所蔵状況は戦前月報の所蔵リスト「ニットー」の項を参照 ※概ね1929（昭和4）年までは総目録を、1930（昭和5）年以降は抜粋目録を掲載
1924（大13）	YM2-L85◎（大正13年8月増補改訂）	形態：1枚物
1934（昭9）	YM2-88○（昭和9年1月改訂） YM2-88○後期（昭和9年7月改訂）	
1935（昭10）	YM2-89○抜粋	4月新譜までの抜粋目録
	YM2-96○ ニットータイムス 第15巻10月号	この時期のニットータイムスは基本的に抜粋目録を掲載しているが、本号では9月新譜までの総目録を掲載

ニッポノホン、イーグル【鷲印】（日本蓄音器商会）

メモ：

・レーベルをニッポノホンに統一する前の時期は、「新音譜目録」と、それに追加する形態の「新音譜追加目録」がある（これらは月報の所蔵リストにも掲載している）

■概要■

- 1907（明治40） F.W.ホーン、現在の川崎市に日米蓄音器製造(株)を設立
- 1909（明治42） 「シンホニー」「ローヤル」「アメリカン」「ユニバーサル」「グローブ」の片面盤を発売
- 1910（明治43） (株)日本蓄音器商会（日蓄）の発足
- 1912（明治45） 日蓄が日米蓄音器製造を吸収して一本化
- 1915（大正4） 不正複製盤排除のため片面盤を回収、全て両面盤に切り替えレーベルを「ニッポノホン（ワシ印）」に統一

→「[日蓄／日本コロムビア系列の会社変遷](#)」も参照

≪参考文献≫（【 】は当館請求記号）

大西秀紀編『SPレコードレーベルに見る日蓄-日本コロムビアの歴史』【DL731-J229】

岡田則夫『続・蒐集奇談』『レコード・コレクターズ』【Z11-1283】 第九回（1991.6, pp.104-109）、第十回（1991.7, pp.116-122）

青字はデジタル化済み（国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能）

		備考
1912（明45）	YM2-M2337（*） 新音譜追加目録 明治45年3月5日売出	赤鷲印を掲載
	YM2-M2339（*） 新音譜 明治45年5月	青紙：ユニバーサル（半球印） 黒紙：アメリカン（鷲印）、ローヤル(黒)（獅子印） 赤紙：ローヤル(赤)（赤鷲印）、シンホニー（天使印）
大正年間		（参考） 『大正期SP盤レコード 芸能・歌詞・ことば全記録』第1～9巻【KD355-G8】 ※『日本蓄音器文句全集』大正2～5年、『ニッポノホン音譜文句全集』大正6～11年の復刻版。 分野別に演目・演者・発売番号、レコードの詞章（歌詞などレコードの内容）の記載あり。 大正2年12月（第1巻）～大正11年8月（第9巻）の間に発売されたレコードを確認出来る。 （音楽・映像資料室開架資料） 『蓄音器文句集』（5版）正文館，1914.【KH13-L245】 →内容は、大正3年1月までに発売された日蓄のレコード内容と思われる。

青字はデジタル化済み（国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能）

		備考
1912 (大1)	YM2-L144 ● 新音譜追加目録 大正元年12月売出	鷲印、赤紙印を掲載
1913 (大2)	YM2-M2340 (*) 新音譜目録 大正2年3月刊行	
	YM2-M2341 (*) 新音譜追加目録 大正2年4月売出	赤紙印を掲載
	YM2-M2342 (*) 新音譜追加目録 大正2年4月売出	天使印を掲載
	YM2-M2343 (*) 新音譜追加目録 大正2年5月売出	鷲印、赤紙印を掲載
	YM2-M2344 (*) 新音譜追加目録 大正2年11月売出	赤紙、黒紙を掲載
1918 (大7)	YM2-85 ● 大正7年7月版 ① YM2-85 ● 大正7年10月版 ①	合冊 ①YM2-85：7月版と10月版を合冊 →いずれもモモタロー目録を含む
1919 (大8)	YM2-L156 ● ニッポノホン鷲印両面盤 [大正8年9月改版]. [1] [2] (2冊)	[1] [2] の2冊あり。([1] 演説ほか [2] 俚謡ほか) →オリジナルは1枚もの（折りたたみ）で表・裏の両面印刷と思われる。 （[1] =表、[2] =裏）

青字はデジタル化済み（国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能）

		備考
1921 (大10)		(参考) YM2-M485 : ニッポノホン 歌舞伎レコード特別号 (大正10年11月) ※歌舞伎レコードの文句 (歌詞カード) 集 →発売番号の記載はない (冒頭のレコード案内に載っているのは「注文番号」) が、以下の総目録で当該レコードの発売番号が確認可能。 ・YM2-85 (1925 (大14) 年) (十字屋楽器店) ・YM2-86 (1927 (昭2) 年)
1923 (大12)	YM2-M2460◎ ニッポノホンワシ印レコード総目録	
	YM2-R108◎ ニッポノホンワシ印レコード総目録 [大正12年11月改版]	
1925 (大14)	YM2-M2348 (*) ワシ印レコード総目録 : ニッポノホン [大正14年3月発売まで]	
	YM2-M2349 (*) ワシ印レコード総目録 : ニッポノホン [大正14年7月発売まで]	
	YM2-85△ 大正14年10月発売レコードまで	YM2-85は十字屋楽器店が発行したもの。 →ワシ印レコード総目録 : ニッポノホン、付・パイオニアレコード

青字はデジタル化済み（国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能）

		備考
1926（昭1）		<p>（参考）</p> <p>YM2-M139：文部省推薦認定レコード目録 第2輯 →凡例に以下の記載あり。 「本目録は大正14年第一輯発表以後昭和元年12月迄の間本省に於いて認定したるレコード42種90枚及び推薦せるレコード478種648枚を整理輯録したものである。」 掲載対象に日本蓄音器のレコードを含む。 ・推薦番号順に「種類、題目、演奏者、枚数、発売番号、目的別、出願者（レコード会社）」を記載。 ・「種類」は唱歌や洋楽、浪花節など各ジャンルのほか、映画説明などもあり。 ・「目的別」は児童的、娯乐的、芸術的、教育的の別。</p>
1927（昭2）	<p>YM2-86○ 昭和2年9月発売レコードまで</p> <p>YM2-M2350 (*) ワシ印レコード総目録：Nipponophone [昭和2年5月発売まで]</p>	
1928（昭3）	<p>YM2-M2351 (*) ワシ印レコード総目録：ニッポノホン 昭和3年12月（昭和3年11月新譜まで）</p>	<p>（参考）</p> <p>YM2-32：コロムビアレコード総目録：邦楽の部 [1928] →1928（昭和3）年10月にニッポノホンの大部分をコロムビア商標へと変更発売した際の、変更分の目録と見られる。 日蓄の主力商品がコロムビアレコードとなったことから、以降ニッポノホンは傍系レーベルとなる（呼称は1928年頃にはワシ印レコード、1930年からはイーグルレコードと変遷）</p>
1930（昭5）	<p>YM2-M2336 (*) イーグルレコード総目録 1930（昭和5年5月新譜迄）</p>	

ニッポンレコード【トンボ印】

■概要■

- 1928（昭和3） 美野川潤三郎らがニッポンレコード合資会社を設立（所在地は同年中に麴町から日本橋へ移り、1930（昭和5）年には田端へと移った）。トンボ印ニッポンレコードのほか、1932（昭和7）年頭頃からホーオーレコードも発売
- 1932（昭和7） ニッポンレコード合資会社からオーゴンレコード合資会社へと社名変更。大衆盤として有名なオーゴンをメインレーベルとして新譜を出す一方、トンボ、ホーオーも継続発行した
- 1934（昭和9） オーゴンレコード合資会社を解散し、新たにオーゴンレコード(株)を設立（翌1935（昭和10）年にはオーゴン蓄音器レコード(株)に社名変更）
- 1937（昭和12） 経営難に陥る。同年中は昭和蓄音器(株)（サクラレコードほか）、昭和録音(株)（ミリオンレコード）が工場を使用
- 1939（昭和14） オーゴン蓄音器レコード(株)が解散。跡地にはゼーオーレコード(株)が設立される

※トンボ印とは別に、音符印のニッポンレコードというレーベルがあるが、これは奈良・あやめ池に設立されたニッポン蓄音器株式会社が発行したもの。同社は解散後のオーゴンレコード（ほか太陽蓄音器・東京レコード製作所）の原盤を買収して複製盤を作っており、関係がないわけではない。

→「[オーゴン](#)」の項も参照

≪参考文献≫（【 】内は当館請求記号）

岡田則夫「続・蒐集奇談」『レコード・コレクターズ』[Z11-1283] 第十八回（1992.5, pp.110-115）

森本敏克 編『レコードの一世紀・年表』沖積舎, 1980, p.33ほか。【KD355-9】（国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能 <<https://dl.ndl.go.jp/pid/12434737/1/19>>）

青字はデジタル化済み（国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能）

		備考
1932（昭7）	YM2-L147● トンボ児童レコード：新譜総目録 [昭和7年正月]	YM2-L147、YM2-L148とも新譜目録に加え、既発売目録を含む。
	YM2-L148● トンボレコード新譜総目録 [昭和7年正月]	
	YM2-M2400 (*) ニッポンレコード：七吋総目録. 1932春季	YM2-M2400：トンボ印6月新譜含む

パーロホン (パルロフォン／パーロフォン) Parlophone (イリス商会)

メモ：

レーベル表記の変遷は以下のとおり。

・1929年4月～1931年3月：パルロフォン → 1931年4月～5月：パーロフォン → 1931年7月～1933年6月：パーロホン

■ 概要 ■

1929 (昭和4) イリス商会が独カール・リンドストローム社の委託を受け、代理店としてパーロホン・レコードの製造販売を開始

1933 (昭和8) イリス商会、パーロホン・レコードの製造販売を中止 (カール・リンドストローム社が、姉妹会社のコロムビアとの関係を考慮して製造販売の中止を通知したとされる)

1934 (昭和9) コロムビアがパーロホン・レコードの発売権を獲得する (「パーロホン」としては売り出さず、コロムビア、リーガルのレーベルから旧パーロホン音源の一部を再発した)

→「オデオン」の項も参照 ※1931年に日本オデオンが新譜発売を中止した後、オデオンレコードはパーロホンが吸収している

→「コロムビア、リーガル、ラッキー」の項も参照

«参考文献» (【 】内は当館請求記号)

『イリス150年-黎明期の記憶』イリス, 2009.【DH26-J4】

岡田則夫「続・蒐集奇談」『レコード・コレクターズ』【Z11-1283】第二十二回 (1992.9, pp.116-121)

「パーロホン版の製作販売中止 コロムビアとの関係から」『朝日新聞』1933.8.25. (朝刊11面)

		備考
1930 (昭5)		以下の欧文表記版もあり (「欧文表記のレコード目録」所蔵リストも参照) YM2-A30○ : Parlophone records catalogue, 1930 edition 1930年1月までの月報 (YM2-119) に収録の洋楽と同じものが多い。
1931 (昭6)	YM2-M2702◎ 抜粋目録 昭和6年4月新譜まで YM2-M2703◎ 総目録 昭和6年9月新譜まで	以下の欧文表記版もあり (「欧文表記のレコード目録」所蔵リストも参照) YM2-D14◎ : Parlophone : selection catalogue 1931-2 ※「1931-2」は「1931年2月」と思われる。

		備考
1932 (昭7)	YM2-123○ 総目録 昭和7年4月新譜まで	
1933 (昭8)	YM2-123○ 総目録 昭和8年3月まで (付・追加目録)	※同年8月、イリス商会パーロホン部はパーロホン・レコードの製作販売を中止。 以下の欧文表記版もあり (「欧文表記のレコード目録」所蔵リストも参照) YM2-D41◎ : 300 Parlophone records : special selection. 1933
1938 (昭13)		※1938年には日本でのパーロホン新譜の販売は終了しているが、以下の参考資料あり。 (参考) YM2-184● : 『1938年のレコード表』(レコード音楽社) →1938年頃発売の洋楽レコード情報を収載 (パーロホンほか14社) →作曲家の50音順にレコードを列挙。発売番号と、一部発売年月の記載あり

ビクター（日本ビクター蓄音器／日本音響）

メモ：

・「邦」「洋」は日本語の目録。欧文のものは「その他」に記載（「欧文表記のレコード目録」所蔵リストも参照）。

■概要■

1927（昭和2） 米ビクターの全額出資で、日本ビクター蓄音器(株)が設立される

1929（昭和4） 米ビクターがRCAに吸収合併され、RCAビクターとなる（日本ビクターもその傘下へ）。日本ビクターに三菱・住友が資本参加し、合併会社となる

1937（昭和12） RCAビクターの持株の過半数を日本産業(株)が買収。更に同年12月、日本産業の持株が東京電気(株)へと移る

1938（昭和13） RCAビクターが資本を撤収。原盤供給契約は継続し、日本国内における商標権は日本ビクターが買い取る

1943（昭和18） 日本音響(株)へと社名変更

1945（昭和20） 日本ビクター(株)へと社名変更

→ビクターの大衆盤、長時間レコードについては、戦前月報の所蔵リスト「ビクター（大衆盤）」「ビクター長時間レコード」の項を参照

≪参考文献≫（【 】内は当館請求記号）

『日本ビクター50年史』日本ビクター，1977。【DH22-841】（国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能 <<https://dl.ndl.go.jp/pid/11954088>>）

岡田則夫「続・蒐集奇談」『レコード・コレクターズ』【Z11-1283】第二十六回（1993.2, pp.90-94）、第二十七回（1993.3, pp.92-97）

青字はデジタル化済み（国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能）

	邦	洋	その他	備考
1929（昭4）	YM2-105○日本物音譜総目録	YM2-177●西洋物音譜総目録	YM2-L246◎ 総目録（日本物/西洋物）	
1930（昭5）	YM2-105●日本物音譜総目録	YM2-177●西洋物音譜総目録		(参考) 特274-372：ビクター文句集 日本曲（声の写真社出版部，昭和5） →昭和3年4月（日本物の発売開始）以降の日本曲の歌詞を収録の様様
1931（昭6）	YM2-42●	YM2-25○	YM2-B7◎洋楽（欧文）	
1932（昭7）	YM2-42○ ※	YM2-25○ ※	YM2-B8◎洋楽（欧文）	※邦楽（YM2-42）、洋楽（YM2-25）：開架資料は欠損あり。 欠損のない以下の完本が書庫にあり。 ・邦楽（YM2-42）→資料貼付ID：1201801191028 ・洋楽（YM2-25）→資料貼付ID：1202100175184
1933（昭8）	YM2-42●	YM2-25○		

青字はデジタル化済み（国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能）

	邦	洋	その他	備考
1934 (昭9)	YM2-42○	YM2-25○		
1935 (昭10)	YM2-42○	YM2-25○		
1936 (昭11)	YM2-42○ ※	YM2-25○	YM2-D36◎洋楽（欧文）	※邦楽（YM2-42）：開架資料は欠頁（p121～152）あり。 欠頁のない完本（資料貼付ID：1202000271791）が書庫にあり。
1937 (昭12)	YM2-42○	YM2-25○	YM2-174○洋楽（欧文） YM2-L171◎ 洋楽特選名盤曲目集 YM2-M258◎ ビクター描写音楽アルバム	YM2-L171： 特選名盤集第一輯、第二輯の収録あり。昭12年頃の刊行と思われる。 YM2-M258： 予約会員に頒布していたレコードの解説。
1938 (昭13)	YM2-42○付・スター 特270-1 (*) ：上記YM2-42と同内容	YM2-25○	YM2-B4◎洋楽（欧文）	（参考） YM2-184●：『1938年のレコード表』（レコード音楽社） ・1938年頃発売の洋楽レコード情報を収載（ビクターほか14社）。 ・作曲家を50音順に配列しレコードを列挙。発売番号、一部発売年月を記載
1939 (昭14)	YM2-42○	YM2-25○	YM2-174○洋楽（欧文）	
1940 (昭15)	YM2-42●	YM2-25○ YM2-104○既発売 ①	YM2-B9◎洋楽（欧文）	合冊 ①洋楽・既発売（YM2-104）：1940年と1941年を合冊
1941 (昭16)	YM2-42●	YM2-104○既発売 ①		
1942 (昭17)	YM2-42●抜粋 YM2-M1163◎ 昭和十六年度発売レコード総覧	YM2-103○特選	YM2-102●番号順 YM2-L158◎ ビクター軽音楽特選目録	YM2-102：昭和15年4月以降発売分を収録。
1943 (昭18)	YM2-42●	YM2-26○既発売（昭和15-18年）		

ビクター洋楽愛好家協会
(Victor record lover's society)

ビクター家庭音楽名盤集
(Victor record library for every home)

いずれも予約会員に頒布していたクラシック全集。発売番号は以下のとおり。

『洋楽愛好家協会』: RL-○

『家庭音楽名盤集』: HL-○

※この表に掲載している資料は各レコードの解説冊子。1輯分（主に12号分）まとめて解説している冊子と、各号の解説をしている冊子がある。

※頒布時期（月）は推定を含む（特に明確でない箇所は、発売番号を赤字で記載）。『洋楽解説集』（YM2-110ほか）昭和14年7月～昭和15年7月の「今月の（臨時發賣及）豫約レコード」欄や、『洋楽新譜』（YM2-114）昭和15年11月～昭和16年8月等で頒布時期を部分的に確認した。

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1935 (昭10)	洋楽愛好家協会										第1輯		
	(発売番号)										KD355-E25 国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能		
		RL-1 RL-2 RL-3											
1936 (昭11)	洋楽愛好家協会	第1輯									第2輯		
	(発売番号)	KD355-E25 国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能									YM2-M240 ◎	YM2-M241 ◎	YM2-M242 ◎
	家庭音楽名盤集	[第1輯]											
	(発売番号)	RL-4	RL-5	RL-6	RL-7	RL-8	RL-9	RL-10	RL-11	RL-12	RL-13	RL-14	RL-15
				YM2-M229 ◎	YM2-R82 ◎	YM2-M230 ◎	YM2-M231 ◎	YM2-M232 ◎	YM2-M233 ◎	YM2-M234 ◎	YM2-M235 ◎	YM2-M236 ◎	YM2-M237 ◎
				HL-1	HL-2	HL-3	HL-4	HL-5	HL-6	HL-7	HL-8	HL-9	HL-10
1937 (昭12)	洋楽愛好家協会	第2輯									第3輯		
	(発売番号)	YM2-M243 ◎		YM2-M244 ◎		YM2-M245 ◎	YM2-M246 ◎	YM2-M247 ◎					YM2-M248 ◎
	家庭音楽名盤集	[第1輯]		第2輯									
	(発売番号)	RL-16	RL-17	RL-18	RL-19	RL-20	RL-21	RL-22	RL-23	RL-24	RL-25	RL-26	RL-27
		YM2-M238 ◎	YM2-M239 ◎		YM2-R83 ◎	YM2-R84 ◎	YM2-R85 ◎	YM2-R86 ◎	YM2-R87 ◎	YM2-R88 ◎	YM2-R89 ◎	YM2-R90 ◎	
		HL-11	HL-12	HL-13	HL-14	HL-15	HL-16	HL-17	HL-18	HL-19	HL-20	HL-21	HL-22

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
1938 (昭13)	洋楽愛好家協会	第3輯							第4輯					
		YM2-M249 ◎			YM2-M250 ◎	YM2-M251 ◎	YM2-M252 ◎	YM2-M253 ◎	YM2-M254 ◎	YM2-M118 ◎	YM2-M119 ◎	YM2-M255 ◎	YM2-M120 ◎	
	(発売番号)	RL-28	RL-29/30	RL-31	RL-32	RL-33	RL-34	RL-35/36	RL-37	RL-38	RL-39	RL-40	RL-41	
	家庭音楽名盤集	第2輯			第3輯									
	YM2-R91 ◎	YM2-R92 ◎		YM2-L4 ◎										
(発売番号)	HL-23	HL-24	HL-25	HL-26	HL-27	HL-28	HL-29	HL-30/31	HL-32	HL-33	HL-34	HL-35		
1939 (昭14)	洋楽愛好家協会	第4輯						第5輯						
		YM2-M121 ◎		YM2-M122 ◎	YM2-M256 ◎	YM2-M123 ◎		YM2-M124 ◎	YM2-R93 ◎	YM2-M125 ◎	YM2-M126 ◎	YM2-M127 ◎	YM2-R94 ◎	
	(発売番号)	RL-42	RL-43	RL-44	RL-45	RL-46	RL-47/48	RL-49	RL-50	RL-51	RL-52	RL-53	RL-54	
	家庭音楽名盤集	第3輯		第4輯										
	YM2-L4 ◎		YM2-L163 ◎											
(発売番号)	HL-36	不明				HL-46	HL-40	HL-45	不明	HL-37	HL-43	HL-48		
1940 (昭15)	洋楽愛好家協会	第5輯						第6輯						
		YM2-M128 ◎			YM2-M129 ◎	YM2-M130 ◎		YM2-M131 ◎	YM2-M132 ◎	YM2-M133 ◎	YM2-M134 ◎	YM2-M135 ◎	YM2-R95 ◎	
	(発売番号)	RL-55	RL-56	RL-57	RL-58	RL-59/60		RL-61	RL-62	RL-63	RL-64	RL-65	RL-66	
	家庭音楽名盤集	第4輯		第5輯										
	YM2-L163 ◎		YM2-L164 ◎											
(発売番号)	HL-41	HL-49	HL-50	HL-51	HL-52	HL-53	HL-54	HL-55	HL-56	HL-57	HL-58	HL-59		
1941 (昭16)	洋楽愛好家協会	第6輯						『洋楽新譜』(YM2-114) 昭和16年11月, 12月に『洋楽愛好家協会』第7輯の広告あり。						
		YM2-M136 ◎		YM2-R96 ◎	YM2-M137 ◎	YM2-R97 ◎								
	(発売番号)	RL-67	RL-68	RL-69	RL-70	RL-71/72								
	家庭音楽名盤集	第5輯		第6輯										
	YM2-L164 ◎		YM2-L170 ◎											
(発売番号)	HL-60	HL-61	HL-62	HL-63	HL-64	HL-65	HL-66	HL-67	HL-68	HL-69	HL-70	HL-71/72		
1942 (昭17)	洋楽愛好家協会	第7輯						第8輯			『洋楽新譜』(YM2-114) 昭和17年7月の広告から、『洋楽愛好家協会』が第8輯 (RL-79~84) で完結したことが確認できる。			
							YM2-M257 ◎							
(発売番号)	RL-73	RL-74	RL-75	RL-76	RL-77	RL-78	RL-79/80	RL-81/82	RL-83/84					

ヒコーキ（帝国蓄音器商会／合同蓄音器）

■概要■

- 1912（大正元） 帝国蓄音器商会が設立される。「ヒコーキ」の商標を登録（その後、「スピクス（スヒクス）」の商標でもレコードを発売）
- 1921（大正10） 日本蓄音器商会に買収される
- 1925（大正14） 三光堂（ライオンほか）、東京蓄音器（富士山印）、スタンダード蓄音器と合併し、合同蓄音器(株)となる。レーベルはヒコーキを引き続き使用
- 1932（昭和7） 合同蓄音器(株)解散。商標権、営業権は日蓄に移譲

→「日蓄／日本コロムビア系列の会社変遷」も参照

≪参考文献≫（【 】内は当館請求記号）

山口亀之助『レコード文化発達史 第1巻』録音文献協会，1936，pp.206-211。【706-12】（国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可 <<https://dl.ndl.go.jp/pid/1231268/1/132>>）

岡田則夫『続・蒐集奇談』『レコード・コレクターズ』【Z11-1283】第十二回（1991.9，pp.98-104）

青字はデジタル化済み（国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能）

		備考
1917（大6）	YM2-M2327（*） ヒコーキ印新音譜目録：天下一品 大正6年11月版	（出版者：帝国蓄音器商会）
1924（大13）	YM2-M2328（*） ヒコーキレコード総目録 大正13年11月版	
1926（昭1）	YM2-L132（*） ヒコーキ・フジサンレコード総目録. [大正]15年1月発売迄 YM2-43○ ヒコーキ・富士山・ライオン	（以降の出版者：合同蓄音器） YM2-43：大正15年10月新譜まで （参考） YM2-M139 ：文部省推薦認定レコード目録 第2輯 →凡例に以下の記載あり。 「本目録は大正14年第一輯発表以後昭和元年12月迄の間本省に於いて認定したるレコード42種90枚及び推薦せるレコード478種648枚を整理輯録したものである。」 合同蓄音器のレコード（ヒコーキ・富士山・ライオン）も対象。 ・推薦番号順に「種類、題目、演奏者、枚数、発売番号、目的別、出願者（レコード会社）」を記載。 ・「種類」は唱歌や洋楽、浪花節など各ジャンルのほか、映画説明などもあり。 ・「目的別」は児童的、娯乐的、芸術的、教育的の別。

		備考
1927 (昭2)	YM2-L133 (*) ヒコーキレコード：飛ぶ程売れる [昭和2年1月]	新譜案内付きの一枚刷総目録。
1928 (昭3)		
1929 (昭4)		
1930 (昭5)	YM2-81〇 ヒコーキレコード総目録	
1931 (昭6)		
1932 (昭7)	YM2-81〇 ヒコーキレコード総目録	

フィルム音帯（日本フィルム）

■ 概要 ■

1937（昭和12） 日本フィルム(株)が設立される。同社はフィルムと専用の再生機の生産を行っていた

1940（昭和15） 日本フィルム(株)解散

«参考文献ほか»（【 】内は当館請求記号）

「フィルム音帯に関する調査報告」『無形文化遺産研究報告』【Z71-S969】(5), 2011, pp.53-76.

「フィルム | リサーチ・ナビ | 国立国会図書館」<https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/avmaterials/post_548>

		備考
[1939（昭14）]	YM2-H684● YM2-R60◎ フィルム音帯目録	<p>※YM2-H684とYM2-R60は再生機の価格、発行者のみ違いあり。その他掲載内容は同一</p> <p>『フィルム音帯目録』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャンルごとに分類した上で、製品番号、演目（収録内容）、おもな出演者（演奏者）を記したカタログ ・ジャンルは長唄、清元、講演、洋楽、教育・児童用、舞踊地方用長唄、常磐津、趣味の音帯、娯楽音帯 ・製品番号は価格により3種類（3000番台は各10円、5000番台は各7円、7000番台は各5円） ・発行は昭和14年の4月か5月頃と思われる。 <p>※その他、フィルム音帯番号7007の文句集（レコードの詞章を掲載した資料）あり</p> <p>YM2-M1194：義太夫廣助さわり集 1（豊澤廣助 [著]、日本フィルム [193-]）</p> <p>→解説のほか豊澤廣助の略歴、写真あり</p>

ポリドール（日本ポリドール蓄音器／大東亜蓄音器レコード）

メモ：

・YM2-106、90（追補）、107（営業用）には、表紙に「邦楽・洋楽」の記載はないが、内容が「邦楽の部」「洋楽の部」に分かれているため邦・洋に分類。

■ 概要 ■

1927（昭和2） 阿南正茂らが日本ポリドール蓄音器商会を設立。洋楽（独グラモフォン原盤）の第1回新譜を発売

1930（昭和5） 邦楽の発売を開始

1932（昭和7） 廉価大衆盤を発売

1934（昭和9） 日本ポリドール蓄音器(株)に社名変更。米デッカと原盤供給契約を締結

1942（昭和17） 大東亜蓄音器レコード(株)に社名変更。邦楽のレーベルを「大東亜レコード」に改称

1943（昭和18） 大東亜航空工業(株)に社名変更。その後、レコードの生産を中止

1946（昭和21） 日本ポリドール蓄音器(株)へと社名を戻す

《参考文献》（〔 〕内は当館請求記号）

岡田則夫「続・蒐集奇談」『レコード・コレクターズ』【Z11-1283】第二十四回（1992.11, pp.102-108）

	邦・洋	邦	洋	備考
1928（昭3）			YM2-L220◎	YM2-L220：昭和3年5月発売新譜迄記載
1929（昭4）			YM2-106●	
1930（昭5）			YM2-L222◎	
1931（昭6）	YM2-106●			YM2-106：『レコードの出来るまで』昭和5年6月24日JOAKにて放送全文』を含む
1932（昭7）	YM2-106○			YM2-106：同上
1933（昭8）		YM2-83●	YM2-H672○	

	邦・洋	邦	洋	備考
1934 (昭9)		YM2-83○	YM2-H672○	
1935 (昭10)		YM2-83○	YM2-H672○	
1936 (昭11)	YM2-90○追補	YM2-83○ YM2-M2580◎	YM2-L223◎	YM2-M2580 : 傑作豪華特選レコード五十種 : 一円盤 (茶レーベル)
1937 (昭12)		YM2-83○	YM2-L224◎	
1938 (昭13)	YM2-107○営業用			(参考) YM2-184● : 『1938年のレコード表』(レコード音楽社) ・1938年頃発売の洋楽レコード情報を収載 (ポリドールほか14社)。 ・作曲家を50音順に配列してレコードを列挙。発売番号と、一部発売年月の記載あり。
1939 (昭14)	YM2-108○			
1940 (昭15)				
1941 (昭16)	YM2-108○			
1942 (昭17)				
1943 (昭18)			YM2-M292◎	YM2-M292 : 和田肇ピアノ軽音楽集 第2輯 →発売番号P5295-P5297の解説

彌生（東京レコード製作所）

■ 概要 ■

- 1934（昭和9） 6月、斎藤誠司商店の善積惟翰が合資会社東京レコード製作所を設立。
破産した太陽蓄音器(株)の事業を引き継ぐ（タイヨー、ヤヨイ（彌生）といったレーベルには太陽レコードの再発が多い）。
同年末、東京レコード製作所は米フランスウィック社と契約し、ラッキーレコードも売り出す
- 1935（昭和10） 1月、東京レコード製作所内にラッキーレコード商会が設立され、ラッキーレコードの発行元がそちらに移る
- 1936（昭和11） 2月、日本コロムビアにラッキーレコードの発行権等を譲渡
- 1938（昭和13） 東京レコード製作所が廃業、工場を閉鎖

→[「太陽」の項も参照](#)

→ラッキーレコードについては、戦前月報の所蔵リスト「ラッキーレコード」の項を参照

≪参考文献≫（【 】内は当館請求記号）

岡田則夫「続・蒐集奇談」『レコード・コレクターズ』【Z11-1283】第二十回（1992.7, pp.106-111）

『蓄音機レコード製作所並発行所明細表、昭和13年末現在』内務省警保局圖書課，[1938]，p.18.【D4-J169】（国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可 <<https://dl.ndl.go.jp/pid/1881757/1/22>>）

		備考
1937（昭12）	YM2-L145● 彌生レコード目録 昭和12年3月	昭和12年3月の新譜に加え、既発売目録を含む。

天賞堂（出張録音）

■概要■

- 1879（明治12） 銀座の印房店として創業。後に高級時計や宝飾品を取扱う
- 1903（明治36） 米コロムビアと契約を結び、写声機及び平円盤（出張録音盤）を売り出す
 ※ 従来の蠟管（円筒形のレコード）の印象が強い「蓄音器」と区別するため、「写声機」「平円盤」という言葉が使われた（「大声蓄音器」とも呼ばれた）。
 なお「レコード」という言葉も、国内では天賞堂が1908（明治41）年に使い始めたとされる

→出張録音については、「[その他の出張録音目録](#)」の項も参照

≪参考文献≫（【 】内は当館請求記号）

「天賞堂の歴史」天賞堂ウェブサイト <<https://www.tenshodo.co.jp/history/>>

倉田喜弘『日本レコード文化史』東京書籍, 1979, pp.78-85, 124-129.【KD355-4】（国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可 <<https://dl.ndl.go.jp/pid/12434731/1/46>>）

岡田則夫「続・蒐集奇談」『レコード・コレクターズ』【Z11-1283】 第七回（1991.4, pp.110-115）

		備考
1905（明38）	GB411-144（備考欄参照） pp.291-299 に下記資料の翻刻あり 写声機平円盤曲名一覧（明治38年1月増訂）	GB411-144：『近代庶民生活誌. 第8巻（遊戯・娯楽）』三一書房, 1988. 解題は pp.498-499. （音楽・映像資料室開架資料）
1906（明39）	YM2-M2776◎ 写声機平円盤曲名一覧 大阪之部 其二（明治39年12月1日）	
1907（明40）	GB411-144（備考欄参照） pp.300-311 に下記5点の翻刻あり 写声機平円盤曲名一覧 大阪之部 其三（明治40年1月25日） 写声機平円盤曲名一覧 東京之部 其一/大阪之部 其四（同2月25日） 写声機平円盤曲名一覧 東京之部 其二・其三/大阪之部 其五（同3月10日） 写声機平円盤曲名一覧 東京之部 其五（同7月27日） 写声機平円盤曲名一覧 東京之部 其六（同11月1日）	GB411-144：『近代庶民生活誌. 第8巻（遊戯・娯楽）』三一書房, 1988. 解題は pp.498-499. （音楽・映像資料室開架資料）

青字はデジタル化済み（国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能）

		備考
1911（明44）	<p>特30-377（*） 写声機平円盤 美音の栞り ※第三版（明治40年12月初版、明治41年11月第二版発行）</p>	<p>特30-377：天賞堂扱いの米コロムビア盤の詞章を活字化したもの。 音楽の部/謡曲の部/薩摩琵琶の部/筑前琵琶の部/詩吟の部/軍歌の部/唱歌の部/三曲の部/長唄の部/ 長唄清元掛合の部/常磐津の部/義太夫の部/清元の部/新内の部/芝居台詞の部/音曲入軍談の部/ 落語の部/浪花節の部/影芝居の部/端唄の部/追分節/かつぼれ阿保陀羅經の部/俗歌雑曲の部 の23部門別に、番号・演者・詞章が記載されている。</p> <p>※『近代庶民生活誌、第8巻（遊戯・娯楽）』三一書房、1988。【GB411-144】 pp.370-439 に当該資料の翻刻あり（解題 pp.502-503）。 （音楽・映像資料室開架資料）</p>

十字屋楽器店

■ 概要 ■

版元の十字屋楽器店は「銀座十字屋」の前身。明治期から輸入物レコード等を扱っていた老舗の販売店。
当時、日蓄の特約店だったと思われる。

[→日蓄のニッポホン目録については、「ニッポホン、イーグル【鷲印】」の項を参照](#)

«参考文献» (【 】内は当館請求記号)

三浦啓市『ヤマハ草創譜：洋楽事始から昭和中期までの70年余をふりかえる：1885-1959』按可社, 2012. 【DL731-L7】

		備考
1925 (大14)	YM2-85〇 ワシ印レコード総目録 付・パイオニヤレコード	大正14年10月発売レコードまで 収録の「パイオニヤレコード」を製造していた「日本楽器製造」はヤマハの前身。 →日蓄が作成した目録を流用し、1頁ほどのパイオニヤ目録を付けている形

その他の出張録音目録

■ 概要 ■

・出張録音：蝋管（円筒形シリンダー）に代わるレコードとして平円盤が登場して間もない20世紀初頭、日本国内にはまだ平円盤のメーカーがなかったため、欧米各社が日本に技師や機材を送り込んで録音を行い、本国に戻って平円盤をプレスした。

出張録音のために渡日したレコード会社と録音時期は以下のとおり（下記参考文献欄に挙げた、岡田則夫「明治時代の出張録音レコード」より）。

- ① 英グラモフォン 1903（明治36）年1月頃
- ② 米コロムビア [天賞堂扱い] 一次 1903（明治36）年春、二次 1906（明治39）年 [三光堂扱い] 1905～1906（明治38～39）年頃
- ③ 独ベカ [三光堂扱い] 1906（明治39）年
- ④ 米ビクター 一次 1907（明治40）年、二次 1911（明治44）年、三次 1916（大正5）年
- ⑤ 独ライロフォン [三光堂扱い] 一次 1909（明治42）年6月、二次 1910（明治43）年11月、三次 1911（明治44）年
- ⑥ 仏パテー 1911（明治44）年

→「[三光堂](#)」の項も参照

→「[天賞堂](#)」の項も参照

«参考文献»（【 】内は当館請求記号）

岡田則夫「明治時代の出張録音レコード」『近代庶民生活誌. 第8巻（遊戯・娯楽）』三一書房, 1988, pp.511-524. 【GB411-144】

岡田則夫「続・蒐集奇談」『レコード・コレクターズ』【Z11-1283】第六回（1991.3, pp.98-103）、第七回（1991.4, pp.110-115）、第八回（1991.5, pp.102-107）

		備考
1903（明治36）	GB411-144（備考欄参照） pp.291-299 に下記資料の翻刻あり Catalogue of Japanese Gramophone Records →英グラモフォンの出張録音盤目録	GB411-144：『近代庶民生活誌. 第8巻（遊戯・娯楽）』三一書房, 1988. 解題は pp.497-498. （音楽・映像資料室開架資料）
[191-] 明治～大正	YM2-75 ● 新版ヴィククタ日本歌曲レコード目録 →米ビクターの出張録音盤目録（一部は英グラモフォンの出張録音盤の再プレス）	出版者不明。 刊行年は1911（明治44）年以降と考えられる。 （明治44年の出張録音盤も収録しているため） ※『近代庶民生活誌. 第8巻（遊戯・娯楽）』三一書房, 1988. 【GB411-144】 pp.324-345 に当該資料の画像掲載あり（解題 pp.499-500）。 （音楽・映像資料室開架資料）